

幸町地区全体の整備コンセプト素案に関する意見  
(幸町地区総合整備検討有識者会議第2回, 第3回会議での検討経緯)

◇第2回会議での意見・提案 ※第3回会議資料より再掲

- 「つなぐ」、「つながる」、「市民」、「歴史」、「伝える」という視点
  - ・ 空間的にいろんな場所を「つなぐ」役割を果たす, スタート地点になる場所
  - ・ 「市民」が「つながる」場所, 活躍したり, 稼いだり, 「市民」が使う場所
  - ・ 過去の「歴史」と, 今の生活を「つなぐ」という側面
  - ・ 未来と今の人を「つなぐ」, 時間的な意味での「つなぐ」視点
  - ・ 文化と人, 文化・芸術と人を「つなぐ」視点
  - ・ 呉の「歴史」, 地域の「歴史」を伝える場所, 「歴史」が重層的に重なった場所
  - ・ 「市民」が誇りを持てる場所
  - ・ 体験を通して, 呉の文化を「伝える」場所



◇第3回会議での事務局素案

素案1：海と歴史に育まれた文化と芸術を楽しむ市民が集う, もう一つの「呉」

素案2：呉の歴史・文化・芸術が育まれた物語（ストーリー）を体感するエリア

素案3：呉の歴史を感じ, 文化・芸術に出会い・育み, 未来へつながるエリア



◇第3回会議での意見・提案

- 「歴史」、「芸術」、「平和」という言葉が独り歩きしないようにしなければならない
- 「集う」、「つなぐ」、「つながる」、「伝える」場所
- 「過去」を見て「未来」へつないでいく, 紡いでいくイメージ
- 人を惹きつけるような場所のイメージ
- 自分が今, ここにいるということが分かる場所のイメージ
- この地域に生まれたという誇り
- 当たり前のような生活が, 市外の方々にとっては魅力的なものに映る
- 言葉が何を示しているのか, 誰に対して発信しているのか
- “もう一つの「呉」”の言葉は, 力強く, 印象に残る言葉
- この街のこどもたちを見据え, 未来につなげる, 紡いでいきたいという点は, 大きな柱の部分として共通